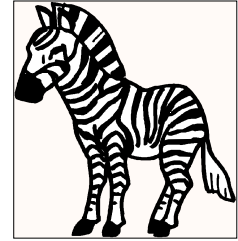


レ ス ス ン プ ラ ン

5 学年 第 4 回 (相互依存関係認識②)



テーマ：「ものの見方」

授業の目標：

- (1)物事を見る際に、異なった見方があり得ることを知り、場合によっては正しい答えが一つだけとは限らないことを知る
- (2)物事をいろいろな側面からとらえ、広い視野を持つことができる
- (3)外国から来た人の違いだけではなく、共通点にも目を向けることができる

用意するもの：

ALT

担当教師

- 若い女性と老女の絵
- 比較するための絵 (象と車、外国人と日本人等)
- シマウマの絵

- 教室中央部分に、スペースを作っておく

時間	活 動	気づいた点
5分	挨拶の後、 担当教師 は子どもたちに簡単な質問をする。(2+2は？日本の首都は？等)子どもたちが質問に答えた後、 ALT はこれらの質問に他の答えがあるかどうか聞く。その後、答えが2つ以上ある質問があるかどうか、聞いてみる。	
10分	ALT は「若い女性と老女の絵」を見せ、その絵に何が見えるか子どもたちに聞いてみる(若い女性を見る子もいれば、老婆を見る子もいる)。その後、何がどんな風に見えたか、数人に説明させる(全員が若い女性と老婆の両方が見えるようになるのが理想)。 担当教師 は、この絵のように、二つ以上の答えがある場合が、生活の中にも実際にあることを説明し、例をあげる。	
10分	「シマウマの縞の色は？」の活動をする。 ALT は子どもたちを2つのグループに分け、半分の子どもは教室の外に出る。 担当教師 は外のグループを監督し、目を閉じて、耳をふさぐように指示する。 ALT は中にいる子どもに、①の絵(白い大きな縦縞のシマウマ)を見せ、「シマウマの縞の色は白です」と言う。今度は、交代して外のグループを中に入れ、②の絵(黒い大きな縦縞のシマウマ)を見せ、「シマウマの縞の色は黒です」と言う。その後、全員が教室に入り、③の絵を見て、「シマウマの縞は何色か？」と尋ねる。その後、 ALT は、どのようにして、人間はある方向に物事を見るよう仕向けられるか、ということについて話す。	
15分	担当教師 は、世の中には、正しいか間違っているか、はっきりしている質問もあれば、個人の考え方によって答えが異なる質問があることを説明する。そして、今から物事をいろいろな見方で見してみる練習をすると告げる。①子どもたちは、示された2つの物の違いをできるだけ多くあげる。(最初に教師が例を示す)②その後、その2つの共通点をできるだけ多くあげる。 担当教師 は、答えを黒板に書き、コメントを添える。最後に“日本人”と“外国人”について同様の活動をする。(その際、相違点よりも共通点を探す方に時間を多くとる；共通点については、最初に教師が例を示す)	
5分	ALT と 担当教師 は、違ったものの見方をする事の大切さを強調し、自分が知っていると思っているものが唯一ではないかもしれないことを常に意識しようと話し、授業をまとめる。	